

## 所 信 表 明

本日ここに、町長3期目の就任後、初めて開催される議会定例会にあたり、今後の町政の舵取りに対する私の所信を申し述べ、議員の皆様方を始め、町民の皆様方の御理解と御協力を賜りたいと存じます。

私は今、本町の未来を左右する極めて重要な時期に、町長としての町政を担う重責をひしひしと感じております。

本町は「第7次幸田町総合計画」という新たな羅針盤を手に、「もっと輝く幸田を、みんなで♪ 未来につなぐ活力ある緑住文化都市」をまちの将来像として、にぎわいのある持続可能なまちに向けて大きく歩みを進めてまいります。

そして、先人たちが築いた信頼の礎の上に、町民の誰もが「ここで暮らしたい、暮らし続けたい」と実感できる、笑顔あふれるまちの実現。これこそが、私が目指す大きな目標でございます。

ここで暮らしたい、暮らし続けたい、とだけ思っただけの「選ばれる魅力あるまち」にしていくためには「育む力」「創る力」「実らせる力」が必要であります。たくさんの課題がありますが「継続進化」のために次の8つのテーマを掲げ、まちづくりを進めてまいります。

一つ目は、「暮らしを守る」であります。

人口減少や少子高齢化という大きな社会変化の中で、町民の皆様が「ここで暮らし続けたい」と実感できる安全で安定した生活基盤を維持します。具体的には、地域住民一人ひとりの防災意識を高めるための教育を幼少期から継続して実施し、中学生が「助けられる側」から「助ける側」として活躍できる土壌を作ります。また、危機管理体制のさらなる強化を図り、誰もが取り残されることなく、自分らしく安心して暮らせる重層的な地域福祉の体制を構築します。

町民の「暮らしの安心」をまちづくりの根幹に据え、持続可能なまちを目指します。

### 二つ目は、「快適な住環境」であります。

本町の強みである豊かな田園景観と、都市機能の利便性を高度に調和させた「緑住文化都市」の形成を、土地区画整理事業を始めとした各種事業により推進します。また、JR 東海道本線 3 駅及びハッピネス・ヒル・幸田を拠点としたコンパクトな市街地形成を目指し、まちのにぎわいを維持します。同時に、これら主要拠点を結ぶ道路網や公共交通ネットワークを整備することで、移動の利便性を高め、現世代のみならず将来世代からも「夢や希望を実現できる場所」として選ばれる、住み心地の良い環境を目指します。

### 三つ目は、「総合的福祉の拠点整備」であります。

誰もが笑顔で過ごせる社会を作るため、介護・医療が必要になった方や、障がい者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる仕組みづくりを、施設の誘致を含め強化します。「8050 問題」や「ダブルケア」といった複雑な家庭課題に対し、地域包括支援センターを核とし、在宅医療・介護の連携を推進します。また、安心して過ごせる居場所づくりや、世代を超えた交流の場を整備し、高齢者が生きがいを持って活躍できる環境を整えるとともに、障がいの有無や年齢にかかわらず、多世代が互いに支え合える地域共生社会の実現を強力に後押しします。

### 四つ目は、「子育て若者支援」であります。

子どもたちを地域として育て、子育てが喜びとなる環境を整備します。出生から思春期に至るまでの切れ目ない支援体制を整え、多様な家庭環境に配慮した保育サービスや放課後児童対策を充実させます。また、多世代交流施設の建設や児童館の機能向上を通じ、子どもが安心して遊び・学べる「居場所」を創出します。小中学校の整備や、国内大学進学、留学に対する奨学金制度により学びの環境を整えます。さらに、若者が将来に希望を持てるよう、地域や

企業が一体となって子どもたちを見守り、本町への誇りと愛着を育むことで、次代を担う人材を育成します。

**五つ目は、「暑さ、水害、地震対策」であります。**

近年の激甚化する自然災害に対し、ソフト・ハードの両面からの防災・減災対策を着実に進めます。住宅・建築物の耐震化に加え、道路、橋梁、上下水道といった重要インフラの長寿命化・耐震化を計画的に進めます。特に、現在整備中の菱池遊水地は、洪水被害の軽減という防災機能のみならず、平時にはスポーツ施設として地域に開放します。さらに、防災道の駅に指定された「筆柿の里・幸田」を広域的な支援拠点として機能を強化し、災害から町民を守り抜く、強靱な体制を確立します。

**六つ目は、「公共交通、施設再配置」であります。**

将来にわたって維持可能な行政サービスを提供するため、計画的な公共施設の更新・維持を行うとともに、適正配置や集約化、見直しを図ることでコスト抑制を目指します。また、えこたんバスの効率化やチョイソコこうたの町全域への運転による公共交通の利便性向上により、高齢者や移動手段の限られた方々が気軽に地域社会に参加できるよう支援します。行財政の徹底した見直しと効率的な経営を行うことで、次世代に過度な負担を残さない強固な財政基盤を確かなものにします。

**七つ目は、「産業活力・観光にぎわい」であります。**

豊かな田園と高度な産業技術を掛け合わせた、持続可能な産業構造を育みます。既存企業の生産性向上を支援するとともに、新たな工業団地造成や企業誘致、起業・創業を促し、雇用の場を確保します。農業においては、後継者の育成や6次産業化を推進し、地場産品のブランド化を進めます。また、地元高校と連携した就職促進やワーク・ライフ・バランスの普及啓発を行うほか、道の駅やロケツーリズム、ふるさと納税を積極的に活用し、町外からの関係人口を創出することで、地域の活力を高めます。

八つ目は、「環境DXの推進」であります。

急速に変化するデジタル時代において、住民サービスの質向上や行政事務の効率化を目指し、DXを戦略的に推進します。これと並行して、産業界や町民生活における「脱炭素化」を促進し、環境負荷の少ない成長モデルを確立します。企業によるデジタル化への支援を通じて、地域産業の競争力を強化します。環境と経済が好循環する「緑住文化都市」として、次世代へ豊かな自然と活気ある経済を引き継ぐための進化を加速させます。

これらの実現への道のりは、決して平坦ではありません。しかし、幸田町には、町を愛する町民の皆様の温かな眼差しと、力強い行動力があります。

私は、第7次幸田町総合計画に込められた願いを、一步ずつ着実に現実のものとしてまいります。議員の皆様におかれましては、魅力あるまちづくりの推進に向けて、より一層の御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げ、町民の皆様の声に真摯に耳を傾け、誰一人取り残さない「未来につなぐ活力ある緑住文化都市」を創造することを、改めてお誓い申し上げます、私の3期目にあたっての所信表明とさせていただきます。

ありがとうございました。

幸田町長 成 瀬 敦